

約束手故も吉村市長謝罪せず

住吉市民病院廃止

入院できなくなる公的病院存続を

大阪市の病床再編計画説明会

住民の怒り噴出

非常に無責任
声受け止めて

した。

「非常に無責任だ。謝罪も何もない。当初の約束は何だったのか」と別の男性は問い掛け、今からでも入院できる病院を設置すると市長が決断すべきと要求。「世界に向かって万博と言いなから、こんな大事な病院も守れないとは。都構想の住民投票に32億円の税金をかけるなら、できるではないか」と迫りました。



住民説明会で若い母親が訴えても視線を合わせようともしない吉村市長＝10日、大阪市住之江区内

日)、住吉区(22日)でも開かれませんが、吉村市長が出席するのは住之江区だけ。約250人の参加者を前に吉村市長はこれまでの経過を淡々と説明し、「住吉母子医療センター」への医療機能の集中化・集約化が重要で、診療所には病床を設けないなどと語りました。

話をすり替え
耳を貸さずに



大阪市は10日夜、市立住吉市民病院(大阪市住之江区)の閉院(3月末)に伴う病床再編計画について住民説明会を同区内で開きました。橋下徹前市長が「二重行政の無駄」と決め付け廃止を打ち出した住吉市民病院。現地での病院存続を求める地元の高い世論を無視して廃止条例が可決されたのは2013年3月のことです。それから5年、跡地への民間病院誘致に3回も失敗した末に、吉村洋文市長が持ち出したのは入院もできない診療所の開設。参加者からは維新市政の無責任極まりないやり方に、怒りや不安の声が相次ぎました。

「医療空白」が すでに生まれ

住吉市民病院は2月20日に入院機能を停止し、すでに「医療空白」が発

生。3月20日には外来診療も終わります。府立急性期・総合医療センター(住吉区)で4月から高度医療を担う「府市共同住吉母子医療センター」(仮称)を新設しますが、住

吉市民病院跡地には6年後に市立大学付属病院を誘致したいとして、それまでの間、小児科・産婦人科の診療所を開設する計画です。

吉村市長は「ハイリスク出産・分娩が増える中で、(母子医療センターでは)住吉市民病院で対応できなかった体制が整

備できる。府市共同で機能の高い病院をつくる」などと話をすり替えました。住吉区の女性は「私たちは現地で入院機能を求めている。いまからでも遅くはない。考え直してほしい」と訴えました。吉村市長は「市民病院跡地から2キロのところ

に新しい病院ができる」などと耳を貸しませんで

「実現するために協議したい」と述べるにとどま

りました。